

研究計画説明書

作成日：令和 2 年 9 月 11 日

研究種別		総理研研究			
研究課題名 * 40 字以内		山梨県固有のデザインソースの集積と「山梨らしさ」を付加価値とした製品等の開発に関する研究			
研究期間		令和 3 年度～令和 5 年度 (3 か年)			
研究体制	研究代表者 (所属)	串田賢一 (産業技術センター)			
	共同研究者 (所属)	秋本梨恵、佐藤博紀、中村卓 (産業技術センター) 郷健太郎、木下雄一郎 (山梨大学)、森原明廣、山田英佑、小畑茂雄、海老沼真治、中野賢治、松田美沙子、西願麻以、近藤暁子、丸尾依子 (山梨県立博物館)、外川豊子 (山梨県立文学館)、望月煌雅 (山梨県印章店協同組合) 外部アドバイザー：宮田なつき (産総研)、大沼敦 (大沼敦デザイン事務所)、鈴木功 (タイププロジェクト株式会社)			
施策 関連	科学技術基本計画	成長促進分野	③やまなしブランドの価値向上分野		
		取組項目	地場産業・伝統産業の活性化に関する研究・開発		
	山梨県総合計画				
	その他部門計画				
研究予算 * 各年度の経費内訳書を添付して下さい。		R3 年度 5,119 千円	R4 年度 3,750 千円	R5 年度 3,043 千円	合計 11,911 千円
研究の背景・ニーズ * 本研究課題を計画するに至った科学的背景、行政からの要請、業界のニーズ等、研究の必要性について記載して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各地域がそれぞれの特徴を生かした自律的で持続的な活動を推進し活力ある社会を作り上げていくことを目的とする政策として「地方創生」が掲げられたことで、地域や地場製品のブランディングを推進する動きがますます盛んになっている。 ○ ブランディングのプロセスにおいては、単に情報発信を行うのではなく、地域の背景にある自然や歴史、風土、文化、伝統などに根ざした「地域らしさ」を確認し、地域に存在する固有の資源と結びつけることで、納得し、共感してもらえる背景を作り込むことが重要となる。 ○ 地域が培ってきた文化や特色をデザインに反映させ、その地域の「らしさ」を具体化した製品等を創造することは、地域のアイデンティティを明確にし、中長期的な運用によって、分かりやすく一貫性のあるメッセージを内外に発信し続けることになるため、ブランディングの推進に大きく寄与する。 ○ このことは、地域で生活する人々の中に潜在している意識や、一部の人にしか知られていない知見等を目に見えるモノや使うことのできる形に具体化し伝えていく活動であるが、過去にこうした総合的な調査研究・開発が行われたことはなく、山梨のブランディングをデザイン面から捉えたデータの蓄積は少ないのが現状である。 				

<p>研究目的</p> <p>*簡潔に、200字程度で記載して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県の地域、地場製品のブランディングをデザインの視点から推進する新たな取組として本研究を実施する。 ○ 地域固有の資源を掘り起こしてコンテンツ化するとともに、付加価値を生む「山梨らしさ」の構成要素を解明し、これらのデータから、愛着を持って息長く使ってもらえるような地場産品を創造し、新たな資源として発信する。 ○ このことにより、地域の人々とモノとを結びつけ、それを広く、長く使うことで生まれる経済的・文化的な効果によるブランディングの盛り上がりを期待する。
<p>研究目標</p> <p>*研究目的を達成するための目標を具体的に箇条書きし、現場ニーズ対応のための研究か、将来の課題解決のための研究かを明らかにして下さい、</p> <p>*目的達成のために、当該研究終了後に継続して研究が必要となる中期的研究を計画している場合、全体計画の中での当該研究と継続研究の目標を区別し明記して下さい。</p>	<p>(当該研究)</p> <p>地域に埋もれている地域資源や歴史・文化・民俗等の資料を商品開発等に直接的に利用することができる形式としてデジタルデータ化するとともに、これらのデータの分析から、付加価値の源泉となる「山梨らしさ」の構成要素を解明する。</p> <p>また、これらのデータをもとにした、新たな地場産品の試作開発～提案に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域資源等のデジタルデータ化～データベース「YAMANASHI DESIGN ARCHIVE」の刷新 ② 付加価値を生むローカリティ要素（山梨らしさ）の特定 ③ 「山梨らしさ」を織り込んだ新たな地場産品の試作開発 <p>(継続研究)</p>
<p>研究内容</p> <p>*概要を、簡潔に300字程度で記載して下さい。</p> <p>*研究目標達成にむけた研究計画・方法を、初年度と2年度目以降の計画に分けて、研究予算と関連づけながら記載して下さい。</p> <p>*共同研究の場合、各研究者が分担する役割を明記して下さい。</p>	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地域資源のデジタルデータ化～データベース「YAMANASHI DESIGN ARCHIVE」の刷新 <p>所蔵資料等の調査からアイデアの源泉となる意匠やストーリーなどのデザインデータの抽出を図る。このデザインデータは、現在運用しているデザインデータベースを一部改修したうえで追加登録し、有効活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨の民俗資料等の調査分析 ・県内各地の取材 ・デジタルデータ化作業 ・データベースの改修 <ul style="list-style-type: none"> ② 付加価値を生むローカリティ要素（山梨らしさ）の特定 <p>歴史・文化・民俗等の各種データから、山梨の本質をつかまえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感性工学による分析（イメージ等の因子分析） ・AI（人工知能）による分析（判別要素の発見） ・人文科学からの分析（県民性の明確化） <ul style="list-style-type: none"> ③ 「山梨らしさ」を織り込んだ新たな地場産品の試作開発 <ul style="list-style-type: none"> ・地場産業や伝統工芸技術を生かした製品の試作開発 ・小ロット製造技術を生かした製品の試作開発 ・オリジナルフォント「やまなしフォント」の開発 <p>年次別研究計画</p> <p>上記①～③は、研究参画機関の連携により同時並行的に進行する。</p>

<p>*研究計画のなかで、何を、どのような手法を用いて明らかにしようとしている点が、本研究の新規性となるのか明記して下さい。</p>	<p>新規性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地場製品のブランディングや「山梨らしさ」をデザインの観点から総合的に調査研究し、プロダクト等に落とし込んだ事例はないため、企業や県民に対し、新しい方向性を示すことができると考えられる。 ○ デザイナーアーカイブのようなデータベースシステムは他に類を見ないため、この拡充を図ることは当該システムのオリジナリティをなお一層高めることにつながり、他との差別化を促進することができる。
<p>共同研究の意義 *研究を共同で行うことが有効である理由を記載して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な知見やリソースを有している機関・団体等が共同で研究することにより、相互補完しながら多面的に検討・取材等を行い、質の高い調査研究~開発を行うことが可能となる。 <p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆産業技術センター：各種取材、2D・3D データ取得、デザインソース化、AI（人工知能）によるデータ分析、プロダクト・オリジナルフォントの設計、デザイナーアーカイブの改修 ◆県立博物館：所蔵資料を基礎とした調査、意匠抽出、時代背景考察、資料撮影、データベース化 ◆県立文学館：所蔵資料を基礎とした調査、意匠抽出、時代背景考察、資料撮影、データベース化 ◆山梨大学：感性工学面からのデータ分析、デザイナーアーカイブインターフェイスの設計 ◆印章店協同組合：オリジナルフォントの設計 ◆外部アドバイザー：AI（人工知能）によるデータ分析、プロダクトデザイン、文字デザインに係る助言
<p>これまでの関連する研究蓄積 *どのような成果が得られているのか、内容を具体的に記載して下さい。 *必要に応じて論文等での成果発表リストを添付して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆関連する研究実績： <ul style="list-style-type: none"> ①「地域の歴史等資源を活用したプロダクトの開発」（産業技術センター経常研究（H24年度）） ②「山梨県固有のデザインソースの編集とアーカイブ構築」（総合理工学研究機構研究（H25～27年度）） ◆得られている成果： <ul style="list-style-type: none"> Web型動的データベース「YAMANASHI DESIGN ARCHIVE」 登録（公開）デザインソース数 = 1,089 点 閲覧数 = 175,000~view（R2.9月現在）
<p>研究成果活用の方策 *研究目標（現場ニーズ対応のための研究か、将来の課題解決のための研究か）と対応させ記載して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ YAMANASHI DESIGN ARCHIVE によるデータの公開・供給 ○ 企業へのライセンスによる製品の製造販売 ○ 制作プロセスを含んだ一般公開の展示会の開催による理解促進